

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671500294
法人名	医療法人社団双星会
事業所名	グループホームつばさ
所在地	富山県富山市春日368-1
自己評価作成日	令和2年8月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年9月18日	評価結果市町村受理日	令和2年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの中庭には、畑や花壇があり、花や野菜の植え付けや収穫、草むしりを一緒に行っています。春になると中庭には燕が巣を作り、雛鳥たちが飛び立つ為の練習をする姿を皆で微笑ましく眺めています。医療面では、定期的に担当医の訪問診療があり、急な体調異変にも対応できています。また、このコロナ禍でも、法人のクリニックの担当医や看護師と密に連絡を取り、安心して暮らしています。職員は、日々笑顔で接し、入居者が、それぞれの時間を自分らしくのんびりと過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念「安心・安全・安定」を掲げ、管理者が中心になって職員同士サポートしながら連携を図り、利用者本位のサービス提供が行われている。利用者の日々の記録は電子カルテにより整理され、職員全員で共有を図り統一したサービス提供につなげている。協力医とは、往診や24時間対応連絡体制を築き、急な体調異変にも対応できている。利用者の人格尊重やプライバシーに配慮した基本に忠実なケアを実践し、食事は温かく、アレルギー、摂食対応・季節感のある手作りおやつを提供：入浴は毎日準備し希望に対応：排泄はトイレでの排泄が基本：楽しみの機会を増やそうと利用者の意向に沿った「ドライブの日」「外食の日」の設定など、利用者が家庭的な雰囲気の中「にこやか」に過ごせるよう支援している。新型コロナウイルス感染症対策で、地域交流や外出の機会が減る中、少しでも明るい気持ちで過ごせるようミニ運動会（玉入れ、若返り体操など）を実施するなど、職員は日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした環境の中で「安心・安全・安定」を目的に障害を持った方でも尊厳を保ち、その人らしさを見出せるように支援することを理念としている。全体ミーティングで管理者と職員は、日ごろの気になることに触れ、理念の再確認・共有を行い実践につなげるよう努めている。また、フロアーや玄関先に理念の掲示を行い、いつでも確認できる。	理念「安心・安全・安定」を掲げ、事業所掲示・ホームページ掲載・全体ミーティングで唱和し、職員全員で共有が図られている。理念を日々のサービスに反映する具体的な個別ケアがミーティングで検討され、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ対策にて地域活動(サークルなど)や保育園との交流、事業所主催の地域ふれあい会の開催はできない。時期が来て、可能になれば行っていく。運営推進会議は、短時間での開催としている。	地域サークル活動の参加・保育園児との交流・地域ふれあい会・ボランティア(習字、歌会等)受け入れなど、地域の方々と相互交流が行われている。コロナ対策で地域の方々との交流は、現在中止状態だが、事業所内でミニ運動会を実施し、利用者の楽しみや気分転換が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の他事業所の催し物に参加し、地域の方が相談できる場を設けるなどした。地域ふれあい会の中で認知症のわかりやすい寸劇をし、相談も受けた。本年度は、コロナの影響で実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月より2か月に1回の運営推進会議を再開している。日々の取り組みや現状について報告している。会議での内容は回覧を使用し、職員全体が内容の把握を行い、サービス向上に努めている。	会議は2か月ごとに市担当者・地域包括支援センター職員・民生委員・家族代表が出席し、運営やサービス状況・活動内容を説明し活発な意見交換がされている。特に、問題事例やアクシデント対応で積極的に意見・提案を聞き取り、サービス反映に努めている。議事録は職員全員に回覧し、把握が図られている。	家族全員に議事録を送付するなど、ホームの現状やサービス、活動内容を知っていただく取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域の行政担当者の参加があり、事業所の取り組みに理解や助言をしてもらっている。	運営推進会議に市担当者が出席し、ホームの運営状況やサービス内容を理解しており、いつでも相談・助言をいただく協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設対応マニュアルやミーティングなどで身体拘束をしないケアの大切さを理解している。玄関の施錠は安全確保が難しいとされる時間(夕方から朝まで)とし、できる限り自由に入出りできるケアに努めている。虐待・身体拘束委員会はあるが、現在活動が乏しい。改めて、活動の再開に取り組む必要がある。	マニュアルや研修会を通じ、全体ミーティングで身体拘束のリスク・具体的な内容の理解を深め、身体拘束をしないケアが実践されている。職員アンケート調査やスピーチロック留意など、職員全員で身体拘束をしないケアに意識的に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会の組織作りに取り組み、更なる身体拘束をしないケアの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々利用者と関わる際、暴力行為はもちろん、心的虐待やケアの放棄等が決してないよう、また見過ごすことのないよう、注意を払っている。気になる言葉遣いがあれば、注意を促したりミーティングで話し合い、言葉の暴力にならないように気を付けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を通して、成年後見制度について学ぶ機会を持っている。ホームでは、1名制度を利用しておられ、今後も知識と理解を深められるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分な説明を行い、家族からの疑問や質問に対して、理解や納得が得られるよう話し合っている。解約に至るまでも、十分に話し合い、説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や、電話の際、意見や要望があれば聞いている。利用者や、家族からの意見・要望はカルテに記載することで職員間の情報共有を行っている。年1回の家族会でも意見をもらっている。それらを可能な限り、サービスに反映できるように努めている。	毎月広報誌「ほのぼの便り」の送付や「家族会」でのレクリエーションや会食などで、ホーム生活の暮らしぶりを知っていただき、面会や家族会の意見交換会、介護計画見直し時期の要望聞き取り時に、意見・要望を聞き取り運営・サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやユニットミーティングが定期的に行われ、意見や提案ができる機会がある。また、個人面接の際にも機会を設けている。それらを検討し、実際に反映させている。	職員は、全体・ユニット会議や自己評価後の管理者面談で、意見・要望を言う機会を持っている。管理者・ユニット長は日常的に職員とコミュニケーションを図り、気づきや提案の把握に努め、その都度検討し、サービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には個々の勤務状態まで把握されていないのが現状。 本年度より、人事評価制度が本格的に移行するが、未知のことで先のことは不明である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員一人ひとりの力量を把握し、段階に応じた研修を進めている。 実務者研修も受けやすく、補助金制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富山県認知症グループホーム連絡協議会の研修に積極的に参加し、同業者との交流・情報交換の機会を利用している。また、地域事業所の交流会に参加している。本年度は、現時点ではなし。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・ユニット長・施設ケアマネジャーは、サービスの利用を開始する段階で、本人の思い、不安や要望を受け止め理解し、安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望など、なんでも話してもらえるような雰囲気づくりを心がけている。家族のニーズに応じられるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、現状や本人家族のニーズを把握し、希望も含め十分な話し合いを行い、必要とされる支援、サービスの情報提供や対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の尊厳を大切にし、生活の様々な時間を共有している。本人を一方的に介護する立場ではなく、生活を共にする家族のような関係性になるよう努め、築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子や気づきなどを家族に伝え共有し、利用者を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院への外出や、馴染みの場所へのドライブ、また、ご家族の協力のもと自宅や周辺への外出支援を行うよう、働きかけている。現在コロナの影響で、なかなか難しい状況である。	家族に墓参りや自宅の外出などで協力を得ている。行き慣れた理美容院の付き添いや「ドライブの日」に利用者の希望の場に小人数で外出するなど、意図的に馴染みの人・場の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を本人の言動や表情をもとに把握し、職員間で情報を共有して座席を工夫し、一人ひとりが孤立せず過ごせるような場所づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族から相談があればいつでも応じられるよう、支援のフォローと信頼関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の出来る利用者はもちろん、それが困難な利用者也日々の行動や表情を観察し、本人の思いを汲み取れるよう努め、情報の共有を行っている。	個別担当者がアセスメントシート・日々の生活ぶり・言動・表情(ありのまま)を電子カルテにより整理し、ホーム生活の希望や意向を職員全員で把握・共有している。心身状況変化時にはアセスメントシートを見直し、現状に合った思い・意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方を本人やご家族、担当者から情報を得ている。その上で、より良いケアマネジメントに繋がるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、心身状況、残存能力を把握し職員間で情報を共有し、その都度話し合い、それに応じた支援が行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価やカンファレンス、その他でも気になっている様子があれば、本人や家族の意向を聞き、職員間で話し合っている。それに伴い希望に沿った目標を設けた介護計画を作成している。	介護計画は、毎月モニタリングを実施し、定期6ヶ月毎、心身状態変化時は随時見直されている。計画見直し時期には、事前に利用者・家族から要望を聞き取り、担当者が整理した生活ぶりや言動をケアカンファレンスで検討し、ケアマネジャーが現状に即した計画を作成している。見直した計画は、利用者・家族に説明し、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施内容、身体状況の変化、気づき等を業務連絡ノートに記載し、情報の共有を行い、実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスでは対応できないニーズにも、出来る限り柔軟に応じるよう、隣接する老人保健施設の理学療法士や言語療法士、訪問診療の医師・看護師と連携を図り、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークル活動に参加し、ホームでは、ボランティアによる習字教室や、歌会があり、地域資源を活用していたが、本年度はコロナの影響で実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。定期的な訪問診療や、体調不良時には受診を行い、主治医は状況を把握している。また、夜間や休日の急変時も主治医に連絡を取り、指示をうけ適切な医療を受けている。	ホーム協力医の情報を提供し、利用者・家族がかかりつけ医を選択している。協力医は、月1回の往診・24時間の助言・相談に対応し、常勤看護師が日常的に健康維持に努め、適切な医療が受けられるよう支援している。受診は家族に依頼しているが、必要に応じ職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や表情の変化を見逃さないよう、早期の体の不調発見に努めている。看護職が勤務している日は、些細なことでも報告している。勤務以外の日は、必要に応じ電話にて連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、ご家族の了承のもと医療機関への情報提供を行っている。入院中は必要に応じ面会を行い、また病院関係者との情報交換や相談に努めている。早期にホームに戻るよう、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人や家族の意向を尊重しつつ、今後予測できる状況を考え、ホームで出来ること、出来ないことを説明し、理解を得ている。訪問診療の主治医とも連携を図り、その方針を職員間で共有し、少しでも長くホームで暮らせるよう努めている。	契約時に利用者・家族に、重度化・終末期の事業所方針、出来る事、出来ない事を説明し、理解を得ている。心身状態の変化時には、かかりつけ医・家族と話し合い、利用者・家族の意向に沿った最善策を検討し支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、救命講習を受ける機会がある。また、ホームには緊急時の対応マニュアルがあり、各自で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議で話し合っている。年2回消防の協力を得て、避難訓練・消火訓練を行っている。地震や水害の際の対応策も定まり職員にも周知しているが、実際の訓練は行われていない。地域へは協力の依頼を行っているが、仕事の都合などで、訓練への参加は、してもらっていない。	年2回消防署の協力を得て、同法人老人保健施設と合同で利用者と一緒に火災訓練を実施している。事業所近隣に一級河川があり、水害時には老健施設3階に避難することは決まっているが、避難訓練は実施されていない。水・食糧の備蓄は行われている。	水害時の避難訓練を実施し、所要時間や課題を事前に把握する取り組みに期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけない対応に努めている。その人の気持ちに寄り添い、優しい声掛けを行うよう努めている。	全体・ユニットミーティングで日々の接遇方法を振り返りながら、個々の思いに寄り添い、スピーチロックに留意し個々の人格を尊重したプライバシーを損ねない声かけ・接遇が実践されている。特に、排泄・入浴時のサービス提供時には留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表しやすいような環境づくりに努めている。何事においても押し付けることなく、自分で選択出来るような声掛けを行っている。意思疎通の困難な方には、表情を汲み取ったり、単純な言葉での選択が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を職員の都合優先にならないよう留意している。一人ひとりのペースや体調を考慮出来る限り一人ひとりが自由に過ごせるよう支援している。マンツーマンでの介助が多いため、職員の都合が優先できないのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好みの服、季節に合ったものを整え支援している。美容院や床屋では、自分で髪の長さを指定している。起床時の整容も自分でしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の思いもあり、準備や片付けに関わるのが難しい。しかし、テーブル拭きを自ら手伝う方は、おられる。自ら手伝ってくださる分には、職員は、一緒に取り組んでいる。あくまでも強制のない、自分から手伝うことを大切にしている。	利用者の出来る事を声かけし、自発的な行為を引き出しながら、季節感を大切に、アレルギーや摂食状況に対応した温かい食事が提供されている。誕生日には、手作りケーキで祝い、希望を取り入れた「外食の日」を設け、毎日季節感に配慮し、おやつを利用者と一緒に手作りし、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾患や身体状況に応じて、食事量の調節を行っている。塩分制限や嚥下の難しい方には、トロミ剤を使用して、誤嚥予防に可能な限り対応している。水分は、起床時に全員に提供し1日の水分摂取が少しでも多く確保出来るよう努めている。それでも水分が不足気味の方には、好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯ブラシのセッティングを行い、個々の能力に応じて誘導し介助を行っている。出来る限り自分で頂き、必要に応じて仕上げのブラッシングや歯茎のマッサージを行っている。入眠前には、義歯を預かり洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを色々と試したうえで把握し、トイレ誘導を個々に応じて行っている。自発的にトイレに行けない利用者には、その人のサインを見逃さないようにして排泄支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンや習慣・サインを把握して、プライバシーに配慮した声かけや時間誘導、シグナル誘導を行い、トイレでの排泄を基本に支援している。また、自力排泄利用者の排泄状況の把握にも力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況を把握し、下剤での細かな調整を行っている。また、下剤だけに頼るのではなく、起床時に冷たい牛乳やスポーツ飲料を提供し、出来る限り自然排便を目指すよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに応じて事前に声掛けを行い、気持ちよく入浴できるよう対応している。食事のタイミングや個々の体力に考慮し、入浴時間を配慮することはある。一人ひとりに合わせて、お湯の温度調整を行ったり声を掛けたりしながら、楽しくユックリと入浴できるよう支援している。	毎日入浴準備を行い、利用者の希望や身体状況に合わせて最低週2回・毎日でも入浴できる体制がある。プライバシーに配慮し、柚子や季節の入浴剤を使用し職員と1対1で利用者のペースでゆっくりと会話を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や、状況に応じて昼寝をし、その他でも自ら自由に休むことが出来る。夜間眠れない方には安心して眠れるよう声掛けを行ったり、居室の空間を整えたりと支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解しており、いつでもお薬ファイルで確認できるようになっている。内服薬の変更があった際には、変化に十分注意し、変化についても施設看護師や主治医に伝えている。また、予約もれが無いよう服薬後の空袋を別の職員との確認を行い、確実な与薬につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力、好きな事、得意なことを把握し生活の中での役割や楽しみが持てるよう職員間で話し合い支援している。食器拭き・テーブル拭き・洗濯ものたたみを手伝ってもらっているが、職員からの強制になることがなく、自ら出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるよう家族の協力を得ながら、自宅に外出できるよう働きかけているが、本人の症状もあり、行けないことの方が多い。その代わりに、散歩に出かけたり、住み慣れた場所周辺をドライブしたりして個別での対応を試みている。しかし、現在コロナ対策にて行うことが難しい。	年間行事計画を作成し、花見・紅葉狩りなどの季節ごとの外出や行事に「ドライブの日」「外食の日」を設定して、利用者の希望を取り入れて外出している。天気の良い日には、散歩に出かけ春日温泉の足湯を楽しんでいる。外出時には、十分なコロナ対策が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自分でのお金の所持が難しい方が多く、また、所持の希望もない。預り金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があり、ご家族の了承もあれば、電話をかけてもらっている。手紙は、渡すことで混乱を招く方には読んでもらった後、預かっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日掃除を行い、利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。トイレを汚される方がおられ、その方の使用後のトイレは必ず確認し、掃除を行い他者の不快を招かない様にしている。中庭では、季節の花や野菜を見たり、リビングには、季節の花や装飾を飾り、季節を見て触れて感じられるよう工夫している。家庭的で落ち着いた空間となるよう考え努めている。	広々と明るく中庭を囲む廊下やリビングには椅子・ベンチが適所に配置され、中庭の草木や自家農園生育状況で季節感を感じながら、利用者同士会話を楽しみながら思い思いに過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者には、それぞれお気に入りの定位置がありテレビを見たり好きな歌のCDを聞いたり、他者との会話を楽しんだり、時には一人で静かに過ごしたりと思い思いの時間を過ごしている。利用者のトラブルには、早々に間に入り対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれの使い慣れた家具などがあり、その人らしい空間となっている。荷物が多すぎて戸惑う方には、ご家族と相談しながら、本人の居心地が良い場所づくりに努めている。	居室は広々と明るくベッド・整理ダンス・エアコンが整備され、自宅から使い慣れた家具・家族写真・好みの装飾品が持ち込まれている。居室レイアウトは、利用者の意向や移動状況を考慮して、使いやすさを重視した居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態や状況に合わせて、その都度、部屋の入口の工夫やレイアウトを考え、職員間で話し合い、より安全で自立した生活が送れるよう努めている。転倒のリスクの高い方に対しては、職員間で意見を出しあい個々に支援している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつばさ

作成日： 令和 2 年 11 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	水害時の避難訓練を実施していないので、想定した訓練を行う。	誘導の仕方や職員の役割を確認する。	・どのくらいの時間がかかるのか、実際に行動してみる。その上で、移動方法を考え、マニュアルを作成する。	1年
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。